

ゼロ金利政策と量的緩和政策のアナウンスメント効果の検証

同志社大学 英 邦広

本稿では、1990年代後半から2000年代前半にかけて日本銀行が採用したゼロ金利政策と量的緩和政策に関する声明が市場に対して与えた効果を検証する。具体的に対象とする声明は、ゼロ金利政策の開始、ゼロ金利政策へのコミットメントの付加、ゼロ金利政策の一時的な解除、量的緩和政策の開始、量的緩和政策へのコミットメントの明確化、量的緩和政策の解除の6つである。分析する際には計量モデルとしてイベント・スタディを用い、使用するデータとして日次の国債利回りを用いる。分析結果から、ゼロ金利政策と量的緩和政策の開始は金利を引き下げていたが、ゼロ金利政策と量的緩和政策の解除は金利を引き上げていたことが分かった。これらは想定されていた結果と同じであった。しかし、ゼロ金利政策へのコミットメントの付加と量的緩和政策へのコミットメントの明確化に関しては、金融緩和で想定されている効果でなく、金融引締で想定されている効果が得られた。

JEL classification codes: E43, E44, E52

Keywords: ゼロ金利政策; 量的緩和政策; イベント・スタディ